

8月17日の説明会の後、参加者のお一人から「根鉢の大きさは、安定度の重要なファクターであり、根鉢の大きさのデータと記録写真を示してほしい」という要請がありました。この要請に対し、移植作業の現場監督である押田大助さん（大地の再生関東甲信越支部/株式会社中央園芸）より、下記の回答をいただきました。

「根鉢の大きさは植えられている場所が道路の近くだったり、他の樹木や埋設物が横にあったりなど、移植する木の現場の状況によるので、どうしても根鉢が大きくなったり小さくなったりバラツキが出てしまいます。それは時間の都合というよりもスペースの都合というのが大きく、作業上やむを得ないというのが現状です。そんな状況を踏まえた上で植え付け時に、根鉢が小さいのであれば固定する根杭の本数を増やしたり、根鉢の下部や底部に太い幹や丸太を置き（かませ）、転倒防止の対策をします。今回のサクラは通常の木の高さより、3分の1以下と、かなり樹高を低く抑えてあるので、倒木のリスクは少ないというのが我々の認識です。ただ、それでも不安定と思えるところに支柱を頑丈にしたり、追加したりという現場合わせの作業を行っており、それが現在の状況であります。そして、さらに追加で支柱をしようというのが次回の追加の作業となります。

ちなみに、今までの杜の学校の施工事例として説明会の時にもありましたが、高木移植をした仙台の現場（およそ樹高6m～12m?）は、根鉢の大きさや土質、樹高、重心バランス、さらに周辺の風当たりなどの状況を含め総合的に考えて支柱をどの程度行うかを決めています。仙台の現場では、根鉢の周辺に焼き杭（根杭）を数本打ち樹体が安定したので、樹木の上部にはあまり支柱はやらなかったように思います。その後数年が経過し、植え付け後の気象条件として、災害級の台風や大雨はなかったと思いますが、例年起こりうる一般的な台風や大雨、台風でいうと風速20mほど、1時間当たり50mm程度の激しい雨はあったと思いますが、その条件にも耐えられたということになります。2021年3月宮城県沖地震では、仙台は震度5強を経験しましたが、倒木は1本もありませんでした。

我々としては仙台の高木移植よりも国立のサクラの方が樹高も低く倒木のリスクは少ないとみており、仮に風速20m以上の台風や1時間当たり50mm以上の豪雨のような災害級の天候時でも、樹木が傾くことはあってもサクラとサクラを結ぶ支柱の効果や、樹木が絡み合っただけで植えられているので、樹体が傾くことはあっても道路に倒れることはないだろうと考えております。それでも倒木する可能性はゼロであると断言することは不可能であり、100%の安全は保障できません。台風や大風が吹くような気候時には、あえて通らないことも危険回避の方法かと思えます。それは今回の仮移植現場に限ったことではなく、全ての樹木や建物について言えることです。また、台風や地震などが発生した後は、再度支柱の緩みや状態を確認し、必要であれば補修作業をしたり、水やりだけではなく定期的なメンテナンスを継続することも大事で、それが樹木の命を繋ぎつつも安全性を限りなく高めていくことに繋がるのではないかと思います」

4日間で40本の移植目標を掲げる作業の中、根鉢の大きさは計測していませんが、参考に大体の根鉢の大きさがわかる写真を数点添付いたします。引き続き、安全性の確保に最大限つとめながら、移植作業を進めてまいります。

（添付の写真について、樹木番号のわかるものは付番をしております。また、樹木の配置図については、8月17日説明会の配布資料1及び3、樹木リストについては配布資料2をご参照ください。）





八重桜「関山」 (No.40)



大島桜 (No.69)



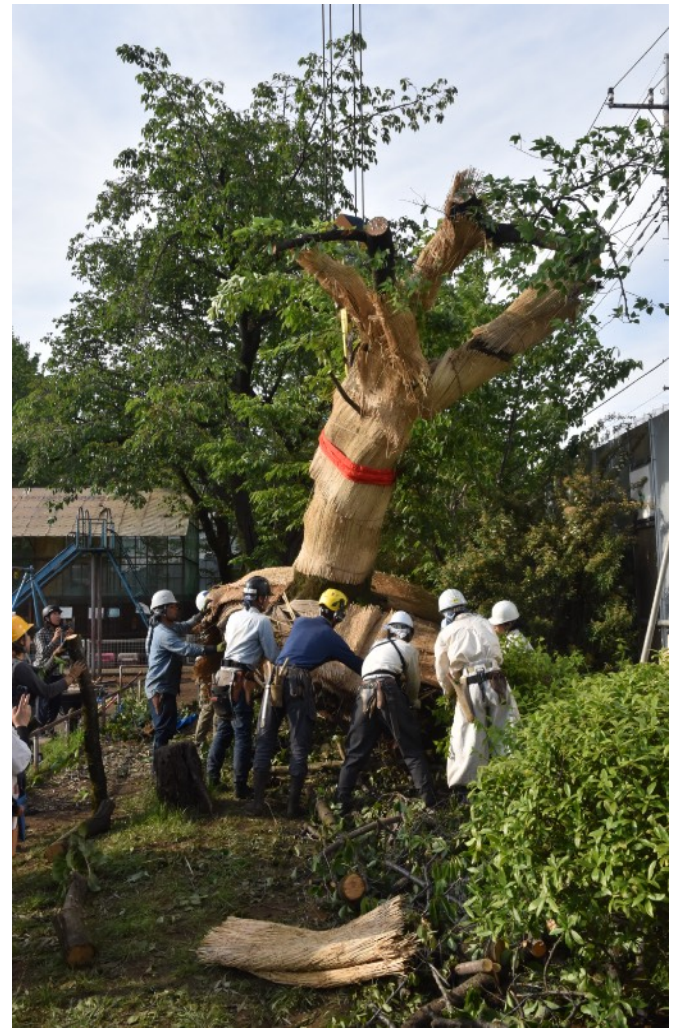




桜 (No.103)







桜 (No.4)





